



令和5年度 決算概要

令和5年度の決算状況についてお知らせします。

1 総括事項

令和5年度につきましては、持続可能な地域医療提供体制を確保することを目的に策定した「公立高畠病院経営強化プラン」の数値目標の達成に向け、収益増加、医療の充実・向上、経費削減、診療所・介護施設との連携の強化及び町保健事業への参画等を行ってまいりました。

収益増加、医療の充実・向上につきましては、院内連携によるベットコントロールの徹底及び入院リハビリテーション医療の充実などに力を入れてまいりました。また、8月に内科医1名を招聘することができ、診療体制の強化を図ることができました。

経費削減につきましては、燃料をはじめとする物価高騰や人件費の増加等がございましたが、契約の見直しを中心に診療材料や薬剤の変更など、削減の努力を行ってまいりました。

営業成績につきましては、入院及び外来収益は増加いたしましたが、新型コロナウイルス関連の収入が大幅に減少し、また、光熱費や材料費等の高騰等により支出が増加した影響を受け収支は悪化いたしました。しかし、一般会計から物価高騰対策の追加支援を受けたことと、支出の抑制に向けた努力を積み重ねたことで、経常収支は10年連続の黒字決算となりました。

2 収支の状況（消費税除き）

総収益では医業その他、医業外その他の大幅な減により総収益は対前年比62,214千円の減となり、経常収益も対前年比62,630千円の減となりました。

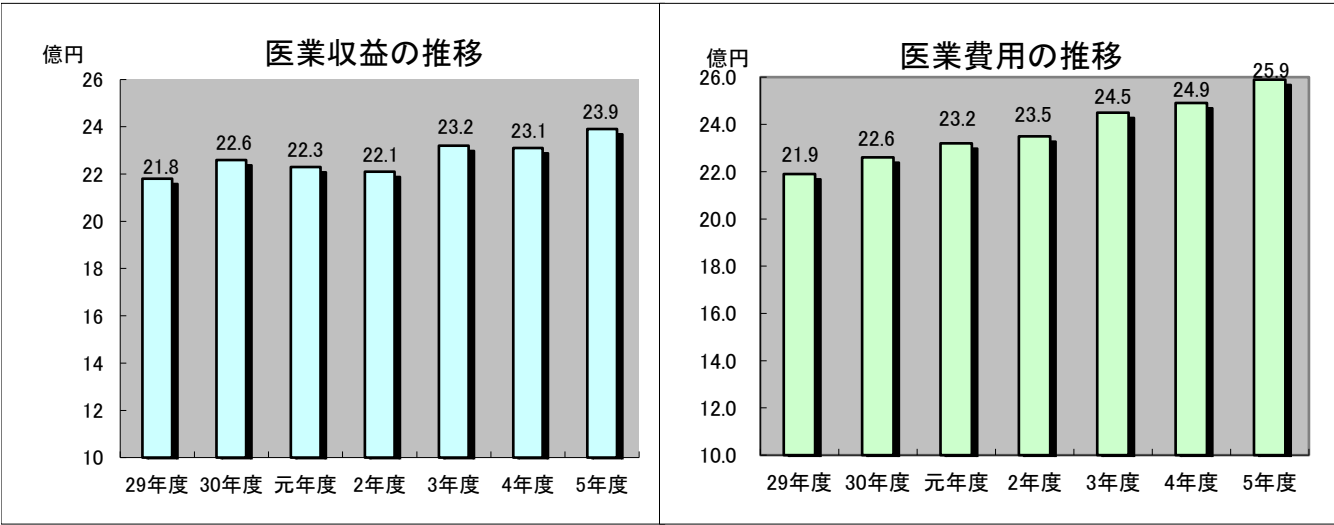
一方費用では給与費及び材料費の増により総費用で対前年比106,050千円の増となりました。

総収支では前年度より168,264千円減少したため、7,873千円の純損失を計上となり、経常収支でも対前年比156,763千円減少しましたが、14,593千円の経常利益を計上することができました。

（単位：千円）

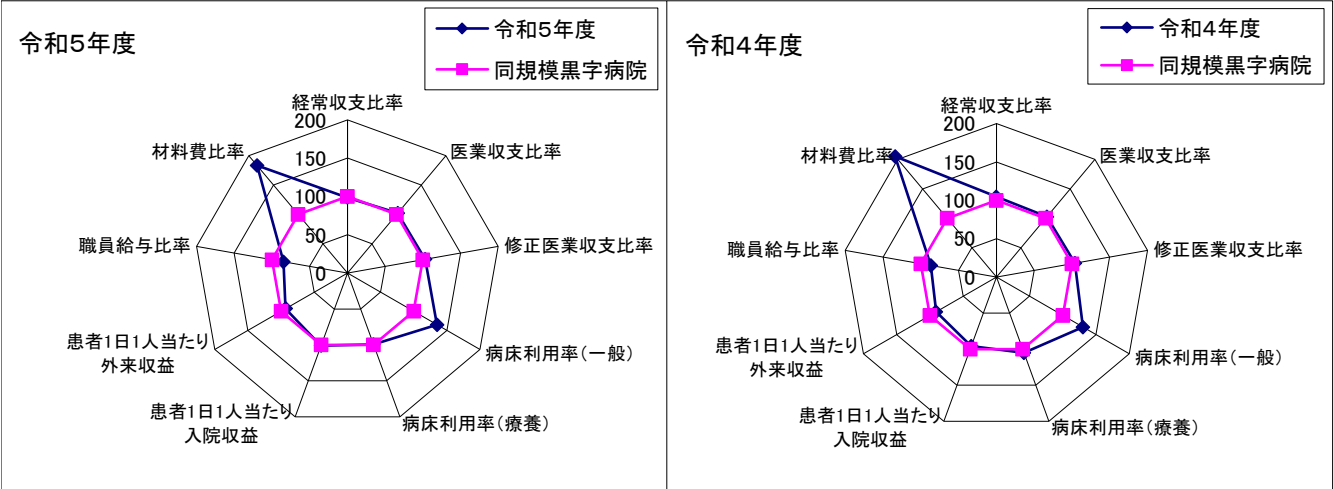
項 目		5年度	4年度	前年比
医 業 収 益	入 院 収 益	1,421,037	1,327,585	107.0%
	外 来 収 益	628,493	604,748	103.9%
	そ の 他	342,566	377,431	90.8%
医 業 外 収 益	負 担 金	175,198	156,407	112.0%
	そ の 他	122,371	286,124	42.8%
特 別 利 益	特 別 利 益	2,781	2,365	117.6%
総 収 益		2,692,446	2,754,660	97.7%
医 業 費 用	給 与 費	1,706,900	1,612,312	105.9%
	材 料 費	200,810	174,354	115.2%
	経 費	531,044	543,886	97.6%
	減 価 償 却 費	143,927	152,803	94.2%
	資 産 減 耗 費	700	1,360	51.5%
	研 究 研 修 費	4,632	3,293	140.7%
医 業 外 費 用	医 業 外 費 用	87,059	92,931	93.7%
特 別 損 失	特 別 損 失	25,247	13,330	189.4%
総 費 用		2,700,319	2,594,269	104.1%
総 収 支		△ 7,873	160,391	-4.9%





3 経営指標等

主要指標の同規模黒字病院との比較



※同規模黒字病院経営指標(令和4年度実績)の平均値を100とした場合の当院の令和4年度・令和5年度それぞれの実績との経営指標数値の割合を示したものである。

※当院及び黒字病院の経営指標数値が類似黒字病院の平均値を上回っている場合(職員給与比率及び材料費比率については下回っている場合)に類似病院の線の外側に表示される。

(単位: %、円)

項 目	令和5年度	令和4年度	増減	改善方向	類似黒字病院
経常収支比率	100.5	106.6	△ 6.1	↓	102.0
医業収支比率	92.4	92.8	△ 0.4	↓	90.4
修正医業収支比率比率	87.6	88.0	△ 0.4	↓	84.8
病床利用率(一般)	91.6	88.3	3.3	↑	67.8
病床利用率(療養)	78.6	83.1	△ 4.5	↓	79.1
患者1日1人当たり入院収益	34,115	32,282	1,833	↑	33,767
患者1日1人当たり外来収益	9,039	8,809	230	↑	9,702
職員給与比率	71.4	69.8	1.6	↓	60.6
材料費比率	8.4	7.5	0.9	↓	15.4

※改善方向については令和4年度と比較して↑が改善、↓が悪化したことを示している。

【収支構造】

○経常収支比率 経常収益÷経常費用×100

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上あることが望ましい。

○医業収支比率 医業収益÷医業費用×100

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上あることが望ましい。

○修正医業収支比率 $(\text{医業収益} - \text{他会計負担金}) \div \text{医業費用} \times 100$

医業収益から他会計負担金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。

【収入構造】

○病床利用率 $\text{年延入院患者数} \div \text{年延病床数} \times 100$

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要があります。

○患者1人1日当たり入院収益 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$

○患者1人1日当たり外来収益 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$

病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と1人当たりの収入という質的な要素が重要となります。

【費用構造】

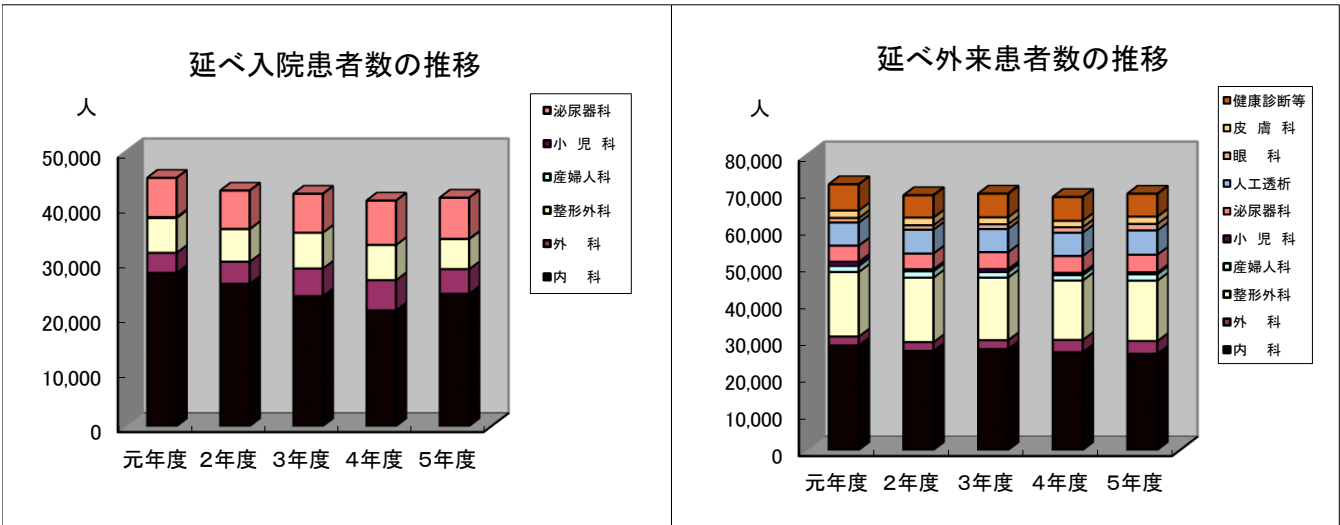
○職員給与比率(職員給与対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$

病院の職員数等が適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなります。(職員給与費には退職手当負担金、児童手当を含まない。)

○材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$

病院において材料費は、職員給与費に次いで大きなウェイトをしめる医業費用。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要があります。

4 患者数の推移



(入院)

区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
内 科	27,962	25,987	23,725	21,128	24,144
外 科	3,649	4,012	5,034	5,511	4,510
整形外科	6,337	5,934	6,520	6,418	5,467
産婦人科	153	37	2	8	39
小 児 科	23	10	0	5	10
泌尿器科	7,142	6,969	7,083	8,055	7,484
合 計	45,266	42,949	42,364	41,125	41,654

※当日退院患者含む

(外来)

区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
内 科	28,434	26,960	27,448	26,572	26,179
外 科	2,422	2,359	2,408	3,361	3,433
整形外科	17,469	17,480	16,944	16,094	16,375
産婦人科	1,651	1,726	1,540	1,470	1,729
小 児 科	1,106	556	767	609	524
泌尿器科	4,409	4,257	4,612	4,574	4,789
人工透析	6,248	6,459	6,257	6,303	6,569
眼 科	1,242	1,213	1,300	1,481	1,766
皮 膚 科	2,027	2,071	1,874	1,738	1,966
健康診断等	7,086	6,038	6,415	6,446	6,205
合 計	72,094	69,119	69,565	68,648	69,535